

42週 信仰

質問 86. イエス・キリストに対する信仰は、何ですか。

答え I イエス・キリストに対する信仰は、救いの恵みとして、それを通して私たちは、福音において私たちに提示された、キリストのみを受け入れ、寄り頼むことで救いを得られます。

解説

イエス・キリストを信じるということ

イエス・キリストを信じるということは、キリストの義を必要として、キリストを掴むことを意味します。それゆえ、キリストを信じるためには、先ず、キリストがなぜ、自分に必要なのかを悟らなければなりません(マルコ 2:17)。つまり、自分の罪を悟ることです。罪に対して神の審判があることを知ると、審判を避けるためにキリストを必要とするのです。つまり、罪から贖われるためにキリストに出て行くことです。自分に義がないことを認めるから、不義を覆われるためにキリストの義を必要とするのです。勿論、自分の行為によって自らを救うことができないことを、徹底して悟らなければなりません。それで、ただ神が用意なされた手段であるキリストのみを必要とするのです。

従って、キリストに対する信仰は、即効的に、興奮して感情の高ぶった中で起こることでは、決してありません。キリストの必要性を先に知らなければならぬので、神のみことばを聞き、黙想を通して、自分の霊的状态を徹底して悟ることが先にあるべきです。従って、救いの信仰は、必ず、自分が罪人であることと同時に、キリストとキリストの有益についての知識が同伴されなければなりません。そして、救いの信仰は、悲痛な心で悔い改める靈魂に生きて働かれます。

信仰の発生

信仰の発生とは、神が、選ばれた民の靈魂のうちに信仰を起こさせることです。神のみことばを聞く中で（ロマ 10:8）霊的な理解力を与えて（エペソ 1:18）、キリストの必要性を知るようにさせることです。

これは、聖霊が、靈魂を新しく生まれさせて、心に覚醒が起こり、意志が更新されて、キリストを掴むようになさるのです（ヨハネ 1:12-13）。誰にでも、このような恵みを与えられるのではなく、神の選ばれた民にだけ与えるから、これは貴重で尊い信仰です（Ⅱテサロニケ 2:13, I ペテロ 1:2）。それから、救いの信仰を持つ者には、先に、救いに対する渴望が大きく起こるようになります。救いの信仰を、恵みと言われる理由は、神が資格のない者たちに賜物として与えるからです（ピリピ 1:29）。

ただキリストにのみ安住すること

イエス・キリストへの信仰は、キリストに対する教理を知るだけでなく、キリストを絶対に寄り頼むことです（エペソ 1:13、使徒 10:43、16:31、26:18、ガラテヤ 3:26、Ⅱテモテ 3:15）。キリストに対する必要性を絶対に悟って、キリストの中にある有益らの大切さを知っているから、ただキリストにのみ安住することです（イザ

ヤ 30:15、マタイ 12:21)。すでに、自分のどのような行為によっても自分を正しくすることや、救い得ることができないことを徹底して知っている状態だから、キリストにのみ頼ることで。すでに、自分に対しては、完全に放棄した状態だからキリストだけを頼みます。

それは、聖霊が、自分自身の行為と自分自身の義に対して放棄しなさいと、私たちに低くさせたことで可能なことです。そうでなければ、人間の腐敗性によって、相変わらず、自分の行為によって正しくなろうと労するでしょうし、キリストに出て来ないでしょう。

福音の中に提示されたこと

福音の中に、キリストが提示されているから、私たちはキリストを受け入れます（ヨハネ 1:12、コロサイ 2:6）。これは、燃える蛇にかまれて死んでいく者たちに、モーセを通して青銅の蛇を仰ぎ見るようにと、救いの方が提示されたことと同じです。それゆえ、神が定め、用意された手段を受け入れる者たちは、救われることでしょう、断る者たちは滅びるのです。その石を受け入れる者には、礎の石となりますが、断る者には、妨げの岩となって倒させるものです（Iペテロ 2:7）。

福音は、キリストの死と復活、そして昇天を語っていますが、それは、キリストの必要性を証言することで、福音を完全に悟るようになれば、キリストの美しさと栄光を見るようになります。それゆえ、キリストを受け入れるとは、キリストの義を自分に適用させることです（ガラテヤ 2:20）。

救いの福音は、すべての人に提示されます

救いの福音は、すべての民族とすべての人に提示されます。それは制限なく証

しされます (マルコ 16:16)。救いは、神がご自分の主権によって値なしに与える恵みです (エペソ 2:5, テトス 3:5)。福音はあらゆるところ、あらゆる人に悔い改めることと、信じることを要求します (マタイ 11:28)。

このように福音の招待は、宇宙的ですが、救いの約束は、ただ信じる者にだけ適用されます (ロマ 10:9)。福音は、すべての人が信じるだろうと語っていません。更にこの信仰は、神の賜物として、恵みの手段の下で、聖霊の有効な御業によって選ばれた者に与えられます (エペソ 2:8、ピリピ 1:29、ヨハネ 6:45)。

救いの信仰でないもの

神の啓示や、教理に同意する水準に留まる歴史的な信仰は、救いの信仰ではありません (ヤコブ 2:19)。それらの上に、必ず、聖霊の有効な御業があるべきです。また、一時的な信仰があります。それは、ただ感情にだけ影響を受けたこと、その心においては変化が起きていないままです (マタイ 13:20-21)。このような信仰は表面的で、結局、一時的な現象で終わってしまいます。従って、救いを受ける信仰ではありません。同じく、奇跡の信仰がありますが (マルコ 16:17-18)、それは賜物的信仰として、そのものとは救いの信仰ではありません。

まことの救いの信仰と、偽り信仰は区別されるべきですが、唇で告白するだけでは分別することが難しいです。それゆえ必ず、その心と生活において、まことの救いの効果があるのかを調べることです。更に聖書は、私たち自らが救いを点検しなさいと命じているので、自分の救いを点検しなければなりません (Ⅱコリント 13:5)。